

(様式9)

和医大病第233号
平成19年10月14日

厚生労働大臣様

和歌山県立医科大学附属病院

和歌山県立医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成18年度の業務に関して下記のとおり報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照 (様式10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照 (様式11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	88人
--------	-----

 (注) 前年度の研修医の実数を記入すること。
- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照 (様式12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照 (様式13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護婦及び准看護婦、管理栄養士その他の従業員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	189人	190人	379人	看護業務補助者	24人	診療エックス線技師	1人
歯科医師	5人	12人	17人	理学療法士	8人	臨床検査技師	41人
薬剤師	25人	3人	28人	作業療法士	3人	衛生検査技師	人
保健師	人	人	人	視能訓練士	人	その他	人
助産師	27人	1人	27.3人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧士	人
看護師	540人	29人	560.7人	臨床工学技士	2人	医療社会事業従事者	人
准看護師	28人	3人	29.8人	栄養士	人	その他の技術員	4人
歯科衛生士	1人	1人	2人	歯科技工士	2人	事務職員	52人
管理栄養士	3人	2人	5人	診療放射線技師	28人	その他の職員	60人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
 歯科、矯正歯科及び小児科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	675.7人	8.6人	684.3人
1日当たり平均外来患者数	1302.9人	85.2人	1388.1人
1日当たり平均調剤数	923剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・顔面骨又は頭蓋骨の観血的移動術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・培養細胞による先天性代謝異常診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・溶血性貧血症の病因解析及び遺伝子解析診断法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・人工中耳	有・ <input type="radio"/> 無	人
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	有・ <input type="radio"/> 無	人
・性腺機能不全の早期診断法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・経皮的レーザー椎間板切除術(内視鏡下を含む)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・ <input type="radio"/> 無	人
・スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・焦点式高エネルギー超音波療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・オープンMRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査	有・ <input type="radio"/> 無	人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・SDI法による抗がん剤感受性試験	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無	0人
・内視鏡下頸部部良性腫瘍摘出術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・栄養障害型表皮水疱症のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・家族性アミロイドーシスのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	人
・子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・不整脈疾患における遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・腹腔鏡下肝切除術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・画像支援ナビゲーション手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・悪性腫瘍に対する粒子線治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・成長障害のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・生体部分肺移植術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・ <input type="radio"/> 無	人

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・骨髓細胞移植による血管新生療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・ミトコンドリア病のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・神経変性疾患のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・脊髄性筋萎縮症のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・固形がんに対する重粒子線治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・カフェイン併用化学療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・31P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・特発性男性不妊症又は性腺機能不全症の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・胎児尿路・羊水腔シャント術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・遺伝性コプロポルフィリン症のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・固形腫瘍(神経芽腫)のRNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・自家液体窒素処理骨による骨軟部腫瘍切除後骨欠損の再建	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・腓腫瘍に対する腹腔鏡補助下腓切除術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・悪性脳腫瘍に対する抗がん剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・高発がん性遺伝性皮膚疾患のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・エキシマレーザー冠動脈形成術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・活性化Tリンパ球移入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・抗がん剤感受性試験(CD-DST法)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・中枢神経白質形成異常症の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・内視鏡下甲状腺がん手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・ <input type="radio"/> 無	人
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術(CT透視下法)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・活性化血小板の検出	有・ <input type="radio"/> 無	人
・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・ <input type="radio"/> 無	人
・ケラチン病の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・末梢血幹細胞(CD34陽性細胞に限る)による血管再生治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・末梢血単核球移植による血管再生治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
・グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・腹腔鏡下広汎子宮全摘出術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・自己腫瘍(組織)を用いた活性化自己リンパ球移入療法	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
・自己腫瘍(組織)及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/> 無	人

高度先進医療の種類(歯科)	承認	取扱い患者数
・インプラント義歯	有・ <input type="radio"/> 無	人
・顎顔面補綴	有・ <input type="radio"/> 無	人
・顎関節症の補綴学的治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・歯周組織再生誘導法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	有・ <input type="radio"/> 無	人
・光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・エックス線透視下非観血的唾石摘出術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・レーザー応用によるう蝕除去・スケーリングの無痛療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・顎関節鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・顎関節脱臼内視鏡下手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・耳鼻いんこう科領域の機能障害を伴った顎関節症に対する中耳伝音系を指標とした顎位決定法	有・ <input type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・ <input type="radio"/> 無	人
自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術(PPH)	有・ <input type="radio"/> 無	人
画像支援ナビゲーションによる膝靭帯再建手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
強度変調放射線治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
胎児心超音波検査	有・ <input type="radio"/> 無	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
画像支援ナビゲーションによる膝靭帯再建手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
インプラント義歯	有・ <input type="radio"/> 無	人
顎顔面補綴	有・ <input type="radio"/> 無	人
人工中耳	有・ <input type="radio"/> 無	人
歯周組織再生誘導法	有・ <input type="radio"/> 無	人
抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	人
腹腔鏡下肝切除術	有・ <input type="radio"/> 無	人
生体部分肺移植術	有・ <input type="radio"/> 無	人
活性化血小板の検出	有・ <input type="radio"/> 無	人
末梢血幹細胞による血管再生治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
先天性桐代謝異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
超音波骨折治療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
眼底三次元画像解析	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	有・ <input type="radio"/> 無	人
X線CT診断装置及び手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・ <input type="radio"/> 無	人

(注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

3 先進医療で上の表に掲げているものは、今年度の業務に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考のため記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	10人	・モヤモヤ病(ウリス動脈輪閉塞症)	5人
・多発性硬化症	21人	・ウェゲナー肉芽腫症	2人
・重症筋無力症	16人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	3人
・全身性エリテマトーデス	88人	・多系統萎縮症	0人
・スモン	0人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人
・再生不良性貧血	20人	・膿疱性乾癬	3人
・サルコイドーシス	6人	・広範脊柱管狭窄症	0人
・筋萎縮性側索硬化症	8人	・原発性胆汁性肝硬変	11人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	43人	・重症急性膵炎	0人
・特発性血小板減少性紫斑病	21人	・特発性大腿骨頭壊死症	3人
・結節性動脈周囲炎	1人	・混合性結合組織病	8人
・潰瘍性大腸炎	50人	・原発性免疫不全症候群	2人
・大動脈炎症候群	12人	・特発性間質性肺炎	2人
・ビュルガー病	3人	・網膜色素変性症	0人
・天疱瘡	4人	・プリオン病	0人
・脊髄小脳変性症	14人	・原発性肺高血圧症	0人
・クローン病	20人	・神経線維腫症	4人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	2人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・パーキンソン病関連疾患	161人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	0人
・アミロイドーシス	0人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	0人
・後縦靭帯骨化症	35人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	0人		

(注)「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1ヶ月に2回		
剖検の状況	剖検症例数	41例	剖検率 9.2%

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
若年発症サルコイドーシスにおけるCARD15遺伝子変異とアポトーシス、免疫特権	金澤 伸雄	皮膚科学	1,300	補 文部科学省 委
脊椎脊髄短絡術施行の脊髄損傷ラットに対する骨髄幹細胞移植の有用性	今栄 信治	脳神経外科学	600	補 文部科学省 委
ミトコンドリア機能を介する脳虚血耐性の分子化学的解明と麻薬作用に関する研究	畑埜 義雄	麻酔科学	500	補 文部科学省 委
造血幹細胞と幹細胞ニッチの相互作用における軸索ガイダンス分子の機能の解明	松岡 広	集学的治療・緩和ケア部	2,300	補 文部科学省 委
遺伝子工学的手法を用いた微小脊髄血管の血流維持機構の解明と麻酔薬作用に関する研究	中畑 克俊	麻酔科学	5,070	補 文部科学省 委
NO合成酵素ノックアウトマウスを用いた微小脳血管の血流維持機構と静脈麻酔薬作用	箕西 利之	麻酔科学	1,100	補 文部科学省 委
尿路結石患者における腎尿細管トランスポーターの遺伝子多型についての研究	柑本 康夫	泌尿器科学	1,000	補 文部科学省 委
造血幹細胞移植後のウイルス感染症早期診断法の研究	吉益 哲	小児科学	500	補 文部科学省 委
トランスジェニックブタを用いた冠動脈攣縮機構の解明と麻酔薬作用に関する研究	木本 吉紀	麻酔科学	500	補 文部科学省 委

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
経鼻的母胎免疫による新生児特異的免疫能の誘導と急性中耳炎予防の可能性	山内 一真	耳鼻咽喉科学	1,300	補 文部科学省 委
急性中耳炎の起炎微生物に関する分子生物学的研究、特にウイルスと細菌の役割について	鈴木 正樹	耳鼻咽喉科学	1,000	補 文部科学省 委
ぶどう膜炎に伴う併発白内障の成因と予防法に関する研究	白井 久美	眼科学	1,300	補 文部科学省 委
酸化ストレスの精密測定システム確立に関する研究	平野 綱彦	内科学第3	800	補 文部科学省 委
自己炎症性疾患制御因子Ttc7のヒトびー性皮膚炎発症における役割について	岡本 勝行	皮膚科学	1,800	補 文部科学省 委
自然発症型てんかんラットに対する慢性電気刺激、薬物持続注入の発作抑制効果	西林 宏起	脳神経外科学	400	補 文部科学省 委
血管収縮に及ぼす局所麻酔薬の構造特異性とタンパクリン酸化酸素の発現	栗山 俊之	中央手術部	1,000	補 文部科学省 委
体温変化が神経シグナルを介する脳微小循環制御に及ぼす影響の電気生理学的解明	堂城 真友子	麻酔科学	1,800	補 文部科学省 委
高血圧ラットにおける揮発性麻酔薬がアンギオテンシン系血管収縮に与える影響の解明	根来 孝明	麻酔科学	1,000	補 文部科学省 委

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Diabetes Research and Clinical Practice 71:140-145, 2006	Extracellular superoxide dismutase gene polymorphism is associated with insulin resistance and the susceptibility to type 2 diabetes.	Masanori Tamai	第1内科
Proc Nat Acad Sci USA 103:885-890, 2006	IA-2 β but not IA-2 is induced by ghrelin and inhibits glucose-stimulated insulin secretion.	Asako Doi	第1内科
3. Diabetes Care 29(4):888-894, 2006	Uncoupling Protein 2 Promoter Polymorphism -866G/A Affects Peripheral Nerve Dysfunction in Japanese Type 2 Diabetic Patients.	Hiroshi Yamasaki	第1内科
Nutrition, Metabolism & Cardiovascular Diseases 16:313-321, 2006	Peripheral nerve functions may deteriorate parallel to the progression of microangiopathy in diabetic patients.	Kenichi Ogawa	第1内科
日本消化器病学会雑誌 103(2):180-188, 2006	Mikulicz病と糖尿病を合併した自己免疫性膵炎の1例.	高木伴幸	第1内科
糖尿病 49(2):133-137, 2006	肝動脈塞栓術後にガス産生性肝膿瘍を併発した2型糖尿病の1例.	庄野剛史	第1内科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hepatology Research 37:692-700, 2007	Potent induction therapy with interferon and ribavirin combination therapy does not achieve a higher sustained virological response rate in chronic hepatitis C with genotype 1b and high hepatitis C virus RNA level	Enomoto S	第二内科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Thorax 61: 761-766, 2006	Inhibition of reactive nitrogen species production in COPD airways: comparison of inhaled corticosteroid and oral theophylline.	T. Hirano	第三内科 (呼吸器)
Am J Respir Cell Mol Biol 34: 592-599, 2006	Reactive nitrogen species augment fibroblast-mediated collagen gel contraction, mediator production, and chemotaxis.	H. Sugiura	第三内科 (呼吸器)
Eur J Pharmacol 533: 289-301, 2006	Agents against cytokine synthesis or receptors.	T. Yamagata	第三内科 (呼吸器)
J Allergy Clin Immunol 118: 84-90, 2006	Airway cytokine expression measured by means protein array in exhaled breath condensate: Correlation with physiologic properties in asthmatic patients.	K. Matsunaga	第三内科 (呼吸器)
J Am Geriatric Soc 54: 1626-1627, 2006	Importance of assistance by caregivers for inhaled corticosteroid therapy in elderly patients with asthma.	K. Matsunaga	第三内科 (呼吸器)
Biochem Biophys Res Commun 339: 290-295, 2006	Smad3 mediates TGF- β 1-induced collagen gel contraction by human lung fibroblasts.	T. Kobayashi H. Sugiura	第三内科 (呼吸器)
Proc Am Thorac Soc 3: 547a-548, 2006	The PDE4 inhibitors roflumilast and rolipram modulate fibroblast collagen gel contraction and chemotaxis mediated by autocrine PGE2 synthesis induced by transforming growth factor- β 1.	S. Togo H. Sugiura	第三内科 (呼吸器)
Clin Exp Med 6: 124-128, 2006	Neuropsychological impairment and decreased regional cerebral blood flow by interferon treatment in patients with chronic hepatitis: a preliminary study.	H. Tanaka	第三内科 (肝臓)

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
World J Gastroentero 12: 1793-1794, 2006	Hepatic encephalopathy with status epileptics: A case report.	H. Tanaka	第三内科 (肝臓)
Cancer Immunol Immunother 55: 1459-1469, 2006	Increased liver temperature efficiently augments human cellular immune response: T-cell activation and possible monocyte translocation.	Y. Kida	第三内科 (肝臓)
Allergology International 55: 347-351, 2006	Two Cases of Asthma in Handicapped Elderly Persons in Which Assisted Inhalation Therapy Was Effective.	K. Matsunaga	第三内科 (呼吸器)
Tohoku J. Exp. Med. 208: 349-354, 2006	Serum Antibody Against Granulocyte/Macrophage Colony-Stimulating Factor and KL-6 in Idiopathic Pulmonary Alveolar Proteinosis.	M. Nara M. Ichinose	第三内科 (呼吸器)
Modern Rheumatology 16: 239-242, 2006	A case of systemic lupus erythematosus expressing intractable thrombocytopenia remedied effectively by intermittent and continuous administrations of a small amount of immune globulin.	E. Maeshima	第三内科 (膠原病)

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Atherosclerosis 189 : 288-296, 2006	Sirolimus accelerates senescence of endothelial progenitor cells through telomerase inactivation.	Imanishi T (今西敏雄)	循環器内科
Hypertension : 48:1058-1065,2006	Effects of Angiotensin II on NO Bioavailability Evaluated Using a Catheter-Type No Sensor.	Imanishi T (今西敏雄)	循環器内科
Internal Medicine 45(9) : 581-587, 2006	The effects of senescence of endothelial progenitor cells on in-stent in patients undergoing coronary stenting.	Matsuo Y (松尾好記)	循環器内科
Obesity14 :1505-1510, 2006	Adiponectin and membrane fluidity of erythrocytes in normotensive and hypertensive men.	Tsuda K (津田和志)	循環器内科
Hypertens Res 29 : 449-455, 2006	Endothelial progenitor cell differentiation and senescence in an angiotensin II -Infusion rat model.	Imanishi T (今西敏雄)	循環器内科
Circ J 70(8) : 1076-1081, 2006	Hyperglycemia accelerated endothelial progenitor cell senescence via the activation of p38 mitogen-activated protein kinase.	Imanishi T (今西敏雄)	循環器内科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Psychiatry Clin Neurosci 60:A4. 2006	MEG study of an epileptic patient with colored visual auras.	鶴飼 聡	神経精神科
Psychiatry Clin Neurosci 60:A47. 2006	Effect of personality dimensions on the audi reflex.	森田佳寛	神経精神科
Psychiatry Clin Neurosci 60:A49-A50. 2006	The effect of rTMS on neurogenesis in t gyrus of rat hippocampus.	上山栄子	神経精神科
Psychiatry Clin Neurosci 60:A3. 2006	Evaluation of regional cerebral blood flow psychosis following stroke.	正山 勝	神経精神科
臨床神経生理学 34:461, 2006	Flunitrazepam により奇異反応を呈したアル 患者の 2 連発経頭蓋磁気刺激による検討	正山 勝	神経精神科
てんかん研究 24(4) : 274-279, 2006	てんかん発作後頭痛に対するトリプタン製剤 の有効性	辻 富基美	神経精神科
精神薬療研究年報 第 38 集 : 126-129, 2006	うつ病の神経細胞新生仮説の rTMS による検討	上山栄子	神経精神科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Pediatr Nephrol 21:194-200,2006	Long-term follow-up of atypical membranoproliferative glomerulonephritis	Yoshikawa N	小児科
Pediatrics International 48:152-157,2006	High-dose mizoribine treatment for adolescents with systemic lupus erythematosus	Yoshikawa N	小児科
Clin J Am Soc Nephrol 1:511-517,2006	Steroid treatment for severe childhood IgA nephropathy	Yoshikawa N	小児科
Pediatr Nephrol 21:1824-1829,2006	The effect of aldosterone blockade in patients with Alport syndrome	Yoshikawa N	小児科
Pediatr Nephrol.2005 Nov;20(11):1660-3.Epub 2005 Aug 16	Rituximab treatment for posttransplant lymphoproliferative disorder (PTLD) induces complete remission of recurrent syndrome	Yoshikawa N	小児科

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Minim Invasive Neurosurg	A minimally invasive endoscopic transsphenoidal approach with an endonasal septal pushover technique by using a modified nasal speculum,	中尾直之	脳神経外科
「脳神経外科学大系 1巻 神経科学」	Parkinson 病への移植治療,	中尾直之	脳神経外科
Brain Res Rev	Transplantation of autologous sympathetic nerve: a potential strategy to restore metabolic function in damaged nigrostriatal dopamine nerve terminals in Parkinson's disease.,	中尾直之	脳神経外科
脳神経外科ジャーナル	パーキンソン病に対する淡蒼球刺激術 ～その方法と効果	小倉光博	脳神経外科
Neuro Med Chir	Recanalization by in-stent percutaneous transluminal angioplasty with distal protection for acute in-stent thrombosis-case report	増尾 修	脳神経外科
脳卒中の外科,	無症候性頸部内頸動脈狭窄症に対するステント留置術,	増尾 修	脳神経外科
脳腫瘍の外科	脳鏡固定器を用いた frameless neuro-navigated 覚醒下手術,	西林宏起	脳神経外科
機能的脳神経外科	術中 Microelectrode recording における大脳皮質刺激応答を用いた神経核 (Vim 核, GPi 核) 同定法の検討	西林宏起	脳神経外科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
胸部外科 59: 336-339. 2006	高齢者高度石灰化狭小大動脈弁輪に対する弁置換術.	岩橋正尋	第一外科
胸部外科 59: 373-376. 2006	両方向性 Glenn 手術における付加的肺動脈血流の効果.	平松健司	第一外科
胸部外科 59: 561-564. 2006	先天性心疾患手術後に発生した難治性乳び胸に対する octreotide acetate の効果.	金子政弘	第一外科
日本外科系連合学会誌 31:7-11. 2006	縦隔悪性胚細胞性腫瘍に対する術前放射線同時併用化学療法 of 検討.	粉川庸三	第一外科
Jpn J Intervent Radiol 21:276-279. 2006	乳癌に対するラジオ波熱凝固療法.	尾浦正二	第一外科
Breast Cancer 14(1):48-54. 2007	Radiofrequency Ablation Therapy in Patients with Breast Cancers Two Centimeters or Less in Size.	Shoji Oura	第一外科
J Thorac Cardiovasc Surg. 133(2):303-8 2007	Data acquisition for the histoculture drug response assay in lung cancer.	Tatsuya Yoshimasu	第一外科
Interact CardioVasc Thorac Surg 6:374-375. 2007	Apicoaortic valved conduit is a good alternative for aortic stenosis with porcelain aorta after off-pump coronary artery bypass grafting.	Yoshiharu Nishimura	第一外科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること (当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
<i>Int. J Cancer</i> 120(3): 585-93. 2007 Feb	Successful cancer vaccine therapy for carcinoembryonic antigen (CEA)-expressing colon cancer using genetically modified dendritic cells that express CEA and T helper-type 1 cytokines in CEA transgenic mice.	Iwahashi M	第2外科
<i>J Surg Res</i> 137(1): 89-95. 2007 Jan	Effect of normothermic perfusion using fructose-1,6-bisphosphate for maintenance of liver function during in situ extended hepatectomy by the total hepatic vascular exclusion technique.	Uchiyama K	第2外科
<i>Oncol Rep</i> 16(6): 1369-74. 2006 Dec	Potential predictors of survival after surgery for colorectal cancer patients with synchronous unresectable liver metastases.	Hotta T	第2外科
<i>Langenbecks Arch Surg</i> 391(5): 449-54. 2006 Sep	Preoperative evaluation of pelvic lateral lymph node of patients with lower rectal cancer: comparison study of MR imaging and CT in 53 patients.	Takifuji K	第2外科
<i>Dis Colon Rectum</i> 49(9):1399-1409, 2006 Sep	Survival in colorectal cancer patients with urinary tract invasion.	Hotta T	第2外科
<i>Ann Surg</i> 244(1): 1-7, 2006 Jul.	Early removal of prophylactic drains reduces the risk of intra-abdominal infections in patients with pancreatic head resection: prospective study for 104 consecutive patients.	Kawai M	第2外科
<i>Oncol Rep</i> 16(1): 177-82, 2006 Jul	The relationship between survival and the expression of dihydropyrimidine dehydrogenase in patients with colorectal cancer.	Hotta T	第2外科
<i>J Gastrointest Surg</i> 10(6): 823-828. 2006 Jun	Impact of lymph node metastasis on survival in patients with pathological T1 carcinoma of the ampulla of Vater.	Terasawa H	第2外科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
<i>Surg Endosc</i> 20(7): 1119-23, 2006 Jul	Preoperative evaluation of extrahepatic bile duct structure for a laparoscopic cholecystectomy.	Uchiyama K	第2外科
<i>Surgery</i> 39(4): 563-573, 2006 Apr	Combination gene therapy of HGF and truncated type TGF- β receptor for rat liver cirrhosis after partial hepatectomy.	Ozawa S	第2外科
<i>Anticancer Res.</i> 26: 1377-83, 2006 Mar-Apr	Potential predictors of long-term survival after surgery for patients with stage IV colorectal cancer.	Hotta T	第2外科
<i>Anticancer Res</i> 26: 1425-32, 2006 Mar-Apr	Clinical impact of adjuvant chemotherapy on patients with stage III colorectal cancer: I-LV/5FU chemotherapy as a modified RPMI regimen is an independent prognostic factor for survival.	Hotta T	第2外科
<i>J Surg Oncol</i> 93(6): 485-90, 2006 May	Dose postoperative chemotherapy have a survival benefit for patients with pancreatic cancer?	Tani M	第2外科
<i>World J Surg</i> 30(4): 567-73, 2006 Apr	Indication of hepatopancreatoduodenectomy for biliary tract cancer.	Hirono S	第2外科
<i>Int J Oncol</i> 28(4): 947-53, 2006 Apr	The boosting effect of co-transduction with cytokine genes on cancer vaccine therapy using genetically modified dendritic cells expressing tumor-associated antigen.	Iwahashi M	第2外科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
整形外科	頰椎椎間板ヘルニアに対する内視鏡 下手術	吉田 宗人	整形外科
整形・災害外科	腰部脊柱管狭窄症に対する保存的 療法	吉田 宗人	整形外科
日本整形外科 学会誌	内視鏡視下脊椎後方手術の現況と 課題	吉田 宗人	整形外科
関節外科	内視鏡視下脊椎手術の適応と限界	吉田 宗人	整形外科
Orthopaedics	MED 法による頰椎手術の可能性 とリスク	吉田 宗人	整形外科
日本整形外科 学会誌	内視鏡下脊椎後方法の拡大手技 について	吉田 宗人	整形外科
脊椎脊髄ジャーナル	頰椎手術における医療事故防止 対策	川上 守	整形外科
Transaction of Orthopaedic Research Society	Ostogenic protein-1 injected to the nucleus pulposus attenuates pain related behavior	川上 守	整形外科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
InSpine	Degenerative spondylolisthesis with stenosis.	川上 守	整形外科
日本脊椎脊髄病学会誌	片側経腋窩進入腰椎椎体間固定術の短期成績-腰椎後側方固定術との比較	川上 守	整形外科
Rivista Di Chirurgia della Mano	Clinical Results of Kienbock 's Disease in Elderly Patients.	谷口 泰徳	整形外科
日本マイク学会誌	母指化術による欠損母指再建	谷口 泰徳	整形外科
中部整形外科災害外科学会誌	足底皮膚軟部組織欠損に対する再建術の治療成績	谷口 泰徳	整形外科
中部整形外科災害外科学会誌	上肢軟部組織欠損の遊離皮弁による治療	谷口 泰徳	整形外科
臨床整形	脊髄腫瘍の手術における術中脊髄機能モニタリングの有用性と限界	安藤 宗治	整形外科
臨床脳波	脊髄機能モニタリングの有用性と問題点	安藤 宗治	整形外科
日本醫事新報	腰部脊柱管狭窄症の診断	安藤 宗治	整形外科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
末梢神経	感覚神経活動電位を利用した 腰椎椎間孔部狭窄症の診断の 有用性と限界	安藤 宗治	整形外科
脊髄機能診断学	頸髄症患者における末梢神経 乾電気刺激による10病テストの 変改の特性について	山田 宏	整形外科
脊椎・脊髄神経 手術手技	ナビゲーションシステムを用いた 腰部脊柱管狭窄症に対する後方 進入鏡視下開窓術	中谷 如希	整形外科
中部整形外科 災害外科学会誌	ナビゲーションシステムを用いた 腰部脊柱管狭窄症に対する後方 進入脊椎内視鏡手術	中谷 如希	整形外科
中部整形外科 災害外科学会誌	腰椎変性すべり症における矢状 面バランス	橋爪 洋	整形外科
日本整形外科 学会誌	腰椎変性すべり症手術における 矢状面バランスの意義	橋爪 洋	整形外科
整形外科	後方支持組織温存脊柱管拡大術 後の摂理した第7頸椎棘突起の 移動と軸性疼痛	松本 卓二	整形外科
中部整形外科 災害外科学会誌	ドクターヘリを用いた脊髄損傷 患者に対するプレホスピタル ケアについて	松本 卓二	整形外科
日本脊椎脊髄病 学会誌	骨粗鬆症脊椎圧迫骨折に対して フックを併用した脊椎後方短縮 術についての検討	松本 卓二	整形外科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Transaction of Orthopaedic Research	The effect of bone morphogenetic protein and basic fibroblast growth factor on cultured mesenchymal stem cells for spine fusion.	南出 晃人	整形外科
中部整形外科 災害外科学会誌	腰部脊柱管狭窄症に対する後方 脊椎内視鏡下手術後の不安定性 について	南出 晃人	整形外科
整形外科 最小侵襲手術 ジャーナル	MEDによる腰部脊柱管狭窄症の 除圧手術	中川 幸洋	整形外科
The Internet Journal of Spine Surgery	Microendoscopic discectomy for surgical management of lumbar disc disease	中川 幸洋	整形外科
Minimally Invasive Neurosurgery	Posterior endoscopic surgery for lumbar disc herniation with contralateral symptoms, -A report of two cases-	中川 幸洋	整形外科
日本臨床スポーツ 医学会誌	腰椎椎間板ヘルニアに対する 内視鏡手術後のアスレチック リハビリテーション	麻殖生 和博	整形外科
日本臨床スポーツ 医学会誌	腰椎椎間板ヘルニアに対する MED法	麻殖生 和博	整形外科
Orthopaedics	スポーツ選手の腰椎椎間板 ヘルニアに対する内視鏡手術	麻殖生 和博	整形外科
中部整形外科 災害外科学会誌	腰椎変性すべり症に対する内視鏡下 除圧術	麻殖生 和博	整形外科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
最新皮膚科学体系 2006-2007、丕置邦彦監修、 中山書店、東京、36-50、 2006	ケミカルピーリングのガイドラ イン	古川福実	皮膚科学
別冊医学のあゆみ アト ピー性皮膚炎、竹原和彦 編、41-46、医歯薬出版、 東京、2006	アトピー性皮膚炎の診断基準と 重症度の診断	古川福実	皮膚科学
先端医療シリーズ 38 皮 膚科 皮膚疾患の最新医 療、齊藤俊明、飯塚 一編、 先端医療技術研究所、東 京、pp13-16、2006	「4.ケミカルピーリングの原 理と適応」	山本有紀	皮膚科学
難治性皮膚疾患の病態と 治療、小川秀興編、吉川 印刷所、東京、215-220、 2005 (発行2006)	エリテマトーデス	古川福実	皮膚科学
What's new in 皮膚科学、 宮地良樹編、メディカルレ ビュー社、東京、100-101、 2006	ケミカルピーリングによる皮膚 癌の治療	山本有紀	皮膚科学
J Dermatol 33: 655-661, 2006	Recent advance in chemical peeling in Japan	Furukawa F	皮膚科学
J Dermatol Sci Suppl 2: S75-S81, 2006	Different apoptotic patterns observed in tissues by phenol and TCA peels	Yamamoto Y	皮膚科学

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 1.1)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床泌尿器科 60(2): 91-99, 2006	泌尿器癌の化学予防	上門康成	泌尿器科
和歌山医学 57(2): 57-62, 2006	前立腺癌症例におけるアンドロゲンレセプター遺伝子の CAG 反復に関する研究.	鈴木淳史	泌尿器科
和歌山医学 57(2): 63-68, 2006	表在性膀胱癌に対する BCG 膀胱内注入療法に関する研究 <第一報>和歌山県立医科大学における長期成績について.	新谷寧世	泌尿器科
和歌山医学 57(2): 69-73, 2006	表在性膀胱癌に対する BCG 膀胱内注入療法に関する研究 <第二報>BCG 免疫療法の機序に関する研究	新谷寧世	泌尿器科
小児外科 38(3): 366-369, 2006	[こどもの病気 Frequently Asked Questions (FAQ)]尿道下裂について手術適応と各種術式の優劣は?	南方良仁	泌尿器科
泌尿器科紀要 52(6): 439-444, 2006	ハイリスク膀胱癌に対する膀胱温存治療の現況 膀胱上皮内癌に対する膀胱温存治療.	上門康成	泌尿器科
小児診療 69(Suppl): 723-727, 2006	[小児の治療指針] 腎・尿路水腎症、尿路結石症	南方良仁	泌尿器科
泌尿器科紀要 52(3): 223-226, 2006	経尿道的膀胱腫瘍切除術後 8 年目に尿道舟状窩および亀頭皮膚に上皮内癌の再発をみた 1 例.	西澤哲	泌尿器科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Lab Invest 86:106 – 115,2006	TGF β pathobiology in the eye	雑賀司珠也	眼科
Am J pathology 168: 1848 – 1860, 2006	Loss of tumor necrosis factor Apoptinates TGF β -Mediated Pathogenic tissue resonseduring Wound healing.	雑賀司珠也	眼科
Am J Phisiol –Cell Phisiol – 290:C282 – 289, 2006	Adenoviral gene transfer of BMP-7, Id2, Or Id3 suppresses injury-induced EMT of Lens epithelium in Nice.	雑賀司珠也	眼科
Molecular vision 12: 841-851,2006	Gene taransfer of Smad7 modulates Injury-inducued conjunctival wound Healing in mice.	山中修	眼科
Mol Vision 14:12: 689 – 691,2006	A new model of anterior subcapsule Cataract ; involment of TGF β / Smad signaling	白井久美	眼科
Jpn J Ophthalmol 49; 343 – 348,2006	Treatment of eyelid Epithelial neoplasm by targeting Sonic hedgehog signaling : An experimental Study	宮崎賢一	眼科
Ophthalmic Res 38: 355 – 360,2006	Genepin suppresses subconjunctiaval Fiboroblast migration, proliferation, And myofibroost transdifferation.	北野 愛	眼科
IOL & RS 20(3): 263 – 268,2006	網膜色素変性症例での白内障術後のフ ィブリン反応	芦田淳	眼科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
眼科臨床医報 100(4) 246 - 249,2006	ナビゲーションを使った蝶形骨洞解放術により視力が著明に改選した Wegener 肉芽腫の一例	井上貴久彦	眼科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
医療情報学	病院情報システムへの動画ストリーミング配信システムの導入	山中 昇	耳鼻咽喉科
Annals of Otolology & Laryngology.2006 115(5)	Cost-Effectiveness of Tonsillectomy For Recurrent Acute Tonillitis.	藤原 啓次	耳鼻咽喉科
ORL J Otorhinolaryngol Relat Spec.2006.68	Evaluation of serotypes of Streptococcus pneumoniae isolated From otitis media patients by multiplex polymerase chain reaction.	Billal DS	耳鼻咽喉科
Acta oto-Lalyngologica 2006.126	Functions of tonsils in the mucosal immune system of the upper respiratory tract using a novel animal model.	鈴木 正樹	耳鼻咽喉科
Drug Delivery System 21(5) 2006	中耳感染実験動物モデルによる DDS の開発	鈴木 正樹	耳鼻咽喉科
Ann Allergy Asthma Immunol 2006.Sep 97(3)	Identification of Italian cypress(Cupressus sempervirens) pollen allergen Cup s 3 using homology and cross-reactivity.	戸川 彰久	耳鼻咽喉科
Vaccine. 2006 Jun 19;24(25)	Maternal intranasal immunization with outer membrane protein P6 maintains specific antibody level of derived offspring.	山内 一真	耳鼻咽喉科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
The British Journal of Radiology 79:522-525, 2006	Usefulness of mini-tracheostomy and torque controlled insertion of applicator in fractionated endobronchial brachytherapy.	Kazushi Kishi	放射線科
Cardiovasc Intervent Radiol 29:75-83, 2006	Physiologic effect of stent therapy for inferior vena cava obstruction due to malignant liver tumor.	Kazushi Kishi	放射線科
European Journal of Radiology Extra 58:17-21, 2006	Capillary-venous malformation and pregnancy: Rationale sclerotherapy.	Kazushi Kishi	放射線科
World J Gastroenterol ISSN 1007-9327, 2006	Transhepatic catheter-directed thrombolysis for portal vein thrombosis after partial splenic embolization in combination with balloon-occluded retrograde transvenous obliteration of splenorenal shunt.	Motoki Nakai	放射線科
European Journal of Radiology 60:23-27, 2006	Transhepatic splenic vein embolization during temporary balloon occlusion of a spontaneous portosystemic shunt for chronic portosystemic encephalopathy.	Motoki Nakai	放射線科
World J Gastroenterol 12:5404-5407, 2006	Ruptured high flow gastric varices with an intratumoral arterioportal shunt treated with balloon-occluded retrograde transvenous obliteration during temporary balloon occlusion of a hepatic artery.	Motoki Nakai	放射線科
European Journal of Radiology Extra 60: 89-92, 2006	Weber-Christian disease presenting with retroperitoneal panniculitis .	Motoki Nakai	放射線科
Radiat Med 24:610-616, 2006	Interfractional fluctuation of rectal dose in high dose rate brachytherapy for prostate cancer.	Hime Ishikawa	放射線科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
IVR会誌 21:14-15, 2006	腸骨静脈ステント留置 DVT 患者における悪性疾患合併の有無による治療成績の差異について.	南口博紀	放射線科
臨床放射線 51 : 1189-1195, 2006	門脈腫瘍栓合併肝細胞癌に対する放射線治療の有用性に関する検討.	白井信太郎	放射線科
臨床放射線 51 : 1654-1661, 2006	下肢血栓性疾患—特に深部静脈血栓症に関して—.	南口博紀	放射線科
癌の臨床 52(1), 27-29, 2006	サナゾールの基礎と臨床.	辻 孝	放射線科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Anticancer Research 26(2B): 1413-1418, 2006	Apoptosis in cervical cancer after balloon-occluded arterial infusion of anticancer drugs.	粉川克司	産科婦人科学教室
European Journal of Gynecological Oncology 27(3): 243-246, 2006	Effective chemoradiotherapeutic protocol with 5-fluorouracil for cervical squamous cell carcinoma in vitro.	田中哲二	産科婦人科学教室
Fertility & Sterility 85(1): 1093-1096, 2006	Immunohistochemical analysis of collagen expression in human corpora lutea during the menstrual cycle and early pregnancy.	岩橋正明	産科婦人科学教室
International Journal of Gynecological Cancer 16(3): 1358-1363, 2006	Clinical outcomes of uterine sarcomas: results from 14 years worth of experience in the Kinki district in Japan (1990-2003).	粉川克司	産科婦人科学教室
International Journal of Oncology 28: 497-508, 2006	A novel mechanism for acquired cisplatin-resistance: Suppressed translation of death-associated protein kinase mRNA is insensitive to 5-aza-2'-deoxycytidine and trichostatin in cisplatin-resistant cervical squamous cancer cells.	田中哲二	産科婦人科学教室
Oncology Reports 15(4): 939-947, 2006	Optimal combination chemotherapy and chemoradiotherapy with etoposide for advanced cervical squamous cancer cells in vitro.	田中哲二	産科婦人科学教室
Oncology Reports 16(2): 373-379, 2006	The autocrine effect of activin A on human ovarian clear cell adenocarcinoma cells.	南佐和子	産科婦人科学教室
The Journal of Reproduction and Development 52(5): 645-649, 2006	Impaired postnatal development in C/EBP β -deficient mice.	田中哲二	産科婦人科学教室

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
International Journal of Molecular Medicine17: 869-873, 2006	Deletion of the kinase domain from death-associated protein kinase enhances spatial memory in mice.	田中哲二	産科婦人科学教室
Gynecologic Oncology 100(2): 365-371, 2006	Mutational analysis of TP53 and p21 in familial and sporadic ovarian cancer in Japan.	梅咲直彦	産科婦人科学教室
産婦人科の進歩 48: 18-23, 2006	当科における局所進行子宮頸癌に対する放射化学療法.	南佐和子	産科婦人科学教室
産婦人科の進歩 58(1): 7-9, 2006	近畿地区における子宮頸癌に対する放射化学療法の現状について ・腫瘍研究部会アンケート調査より.	粉川克司	産科婦人科学教室
産婦人科の進歩 58(4): 361-366, 2006	当科における卵巣上皮性境界悪性腫瘍症例の検討.	粉川克司	産科婦人科学教室
エンドメトリオーシス研究会会誌 27: 123-126, 2006	腹腔外子宮内膜症に対するテラーメイド GnRHa 療法.	田中哲二	産科婦人科学教室

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
In. J Oral Maxillofac Surg 35: 563-565, 2006	A Metastatic Hemangiopericytoma of The Floor of The Mouth.	Nobuo Morita	歯科口腔外科
Pathol Oncol Res 12(2):87-91, 2006	Immunohistochemical Expression of EGFR and p-EGFR in Oral Squamous Cell Carcinomas.	Yukihiro Hiraishi	歯科口腔外科
Jpn J Oral Diag/Oral Med. 20(1): 214-218, 2007	A Case of Reconstruction Using Free Iliac Bone, Pedicled Cervical Island Myocutaneous Flap, and Pectoralis Major-Myofascial Flap after Resection of a Lower Gingival Cancer Advanced.	Yukihiro Hiraishi	歯科口腔外科
和歌山医学 57(4) : 131-134, 2006	小唾液腺原発腺様嚢胞癌の臨床病理学的検討.	薮田達雄	歯科口腔外科
和歌山医学 57(2) : 85-87, 2006	犬咬傷による顔面外傷の2症例.	妙中泰之	歯科口腔外科
和歌山医学 57(3) : 100-102, 2006	上唇粘膜下に生じた結節性筋膜炎の1例.	戸堂耕造	歯科口腔外科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Clin Pathol 59 77-82,2006	Importance of lymph vessels in gastric cancer : a prognostic indicator in general and a predictor for lymph node metastases in early stage cancer	中村 靖司	臨床検査医学
Diad Res clin Pract 72:302-307 2006	Serum adiponectin is associated with fasting serum C-Peptide in non-obese diabetic patients	古田 眞智	臨床検査医学

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
リハビリテーション科 診療近畿地方会誌、第1 号(通刊6号)、pp7-11、 2006	Carotid Artery Flow Volume and Velocity during Isometric Exercise in the Supine and Sitting Positions Healthy Men	Nakamura.T	リハビリテーション科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Blood 107: 1184-1191, 2006	Immunoselection by natural killer cells of <i>PIGA</i> mutant cells missing stress-inducible ULBP.	花岡 伸佳	輸血・血液疾患治療部
Am J Hematol 81:366-369, 2006	Torsades de pointes upon fluconazole administration in a patient with acute myeloblastic leukemia.	花岡 伸佳	輸血・血液疾患治療部
Leuk Lymphoma 47:531-9,2006	Activation of the endoplasmic reticulum stress pathway is associated with survival of myeloma cells.	園木 孝志	輸血・血液疾患治療部
Int J Oncol 29:1087-94,2006	Effective anti-angiogenic therapy of sestablished tumors in mice by naked anti-human endoglin (CD105) antibody: Differences in growth rate and therapeutic response between tumors growing at different sites.	采田 志麻	集学的治療・緩和ケア部

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Kidney Int. 70(suppl 102), 12-15,2006	Direct injection of calcitriol or its analog into Hyperplastic parathyroid glands induces apoptosis of parathyroid cells.	Shiizaki K	腎臓内科・血液浄化センター
Kidney Int. 70:486-495,2006	Direct maxacalcitol injection Into hyperplastic parathyroids Improves skeletal changes in Secondary hyperparathyroidism	Shiizaki K	腎臓内科・血液浄化センター

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int J Artif Organs	Acid-Base Balance during Continuous Veno-venous Hemofiltration: The Impact of Severe Hepatic Failure.	中敏夫	救急集中治療部
Ther Apher Dial	The effects of continuous veno-venous hemofiltration (CVVH) or direct hemoperfusion with polymyxin B immobilized fiber(PMX-DHP) on neutrophil respiratory oxidative burst in patients with sepsis or septic shock.	中敏夫	救急集中治療部
Crit Care Med	The Effects of Saline or Albumin Resuscitation on Acid-Base Status and Serum Electrolytes	中敏夫	救急集中治療部
中部日本整形外科・災害外科学会誌	骨端線閉鎖前下腿骨幹部骨折に対するMIPO法の治療経験.	宮崎展行	救急集中治療部
中部日本整形外科・災害外科学会誌	脛骨骨折に対するアトミカルプレートを用いたMIPO法の治療経験.	宮崎展行	救急集中治療部

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Parkinsonism&related Disord12:s63-s66, 2006	Drug intervention for freezing of gait resistant to dopaminergic therapy: A pilot study.	近藤智善	神経内科
Neurosci Letter 401:146-149, 2006	Intragastric proteasome inhibition induces alpha-synuclein aggregations in neurons in the dorsal motor nucleus of the vagus in rats.	三輪英人	神経内科
Brain Res (Main Journal) 1068:94-101, 2006	A species-specific difference in the effects of harmaline on the rodent olivocerebellar system.	三輪英人	神経内科
脳と神経 58(5): 413-417,2006	パーキンソン病患者からみた治療ガイドライン	廣西昌也	神経内科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 板倉 徹
管理担当者氏名	事務局長 小山 陽

	保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約	病院課 中央病歴部 薬剤部 各診療部門	カルテ、X線写真等は、中央病歴部において集中管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	事務局総務課
	高度の医療の提供の実績	事務局病院課
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	事務局病院課
	高度の医療の研修の実績	事務局病院課
	閲覧実績	事務局病院課
	紹介患者に対する医療提供の実績	事務局病院課
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	事務局病院課 薬剤部
	9 確規 専任の医療に係る安 保則 全管理を行う者の配置 の第 状況	医療安全 推進室
	9 専任の院内感染対策 状況条 を行う者の配置状況	医療安全 推進室
	2 の 医療に係る安全管理 2 を行う部門の設置状況	事務局病院課
	3 当該病院内に患者か 及らの安全管理に係る相 談に適切に応じる体制 第 の確保状況	医療安全 推進室
	1 医療に係る安全管理 1 のための指針の整備状 条 況	医療安全 推進室
	各号 医療に係る安全管理 に のための委員会の開催 状 況	医療安全 推進室
	掲 医療に係る安全管理 げ のための職員研修の実 る 施状況	医療安全 推進室
	体 医療機関内における 制 事故報告等の医療に係 る安全の確保を目的と した改善のための方策 の状況	医療安全 推進室

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 板倉 徹
閲覧担当者氏名	総務課長 太田 武治、 病院課長 服部 一宏 医療安全推進室 大西 健生
閲覧の求めに応じる場所	病院課

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延 件
閲覧者別	医師	/
	歯科医師	
	国	
	地方公共団体	

該当はありません。

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	63.6%	算定期間	平成18年4月1日から平成19年3月31日
算	A： 紹介患者の数		12,705人
出	B： 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		8,279人
根	C： 救急用自動車によって搬入された患者の数		4,709人
拠	D： 初診の患者の数		32,114人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式13-2)

規則第9条の23及び第11条各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有(3名)
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(1名)
③ 医療に係る安全管理を行う部門の配置状況	有
・ 所属職員：専任 (3名) 兼任 (61名) ・ 活動の主な内容： ア 医療安全推進部の業務に関する企画立案及び評価 イ 医療安全に関する研修その他職員の意識の向上に関する指導 ウ インシデントレポート及びアクシデントレポートの受理及び分析評価 エ 医療安全推進委員会及び医療事故調査委員会の運営に必要な事務 オ 診療録及び看護記録等の記載事項の確認と指導 カ その他医療の安全推進に必要な業務全般	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
・ 指針の主な内容： 医療関係者それぞれが役割分担と責任のもと、連携したチーム医療を推進しインフォームドコンセントを基本として、安全かつ適切な医療の提供体制を確立することを目指して、次の諸規程を制定している。 ア 医療安全推進規程 イ 医療事故発生時の対応マニュアル	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年12回
・ 活動の主な内容： 平成12年12月1日から「医療安全推進の新制度」をスタートさせて以降、医療安全推進委員会を月1回の開催している。 ア 医療事故等の分析と安全管理に係る改善策や院内統一基準の制定。 イ 医療安全推進部及びリスクマネージャー会議からの提案事項の審議。 ウ 医療事故等の情報開示のあり方の検討。 エ その他、医療の安全確保と医療の質の向上に関すること。	

⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年5回

・ 研修の主な内容：

平成18年度研修会開催実績

総参加者数=1,631名

年月日	研 修 テ ー マ	参加職員数
18/6/22	インフォームドコンセント「あなたにゆだねる私の命」	全体研修会 213名
18/8/18、 23、24	DVD研修 「みんなで考えよう医療事故防止対策！～ルールを守って安全確保～」	全体研修会 765名
18/10/31	「不穏状態に強くなろう/QOLとRiskを秤にかけて」	全体研修会 163名
18/12/20	「救急」知らずして安全なし	全体研修会 239名
19/2/7	「克彦の青春を返して…医療安全を願って…」	全体研修会 251名

⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 医療安全推進規程等に基づいて、院内報告制度を定め、積極的な報告の指導に努めている。また、容易に報告出来るようにシステム改善を行っている。
 インシデントレポートの迅速かつ適切な分析等に努めるとともに、リスクマネージャー会議を通じて、医療安全推進策の検討と情報共有を推進している。
 医療安全推進部にAI事例検討会を設置しアクシデントレポート及びインシデントレポートの具体的課題に関して迅速かつ集中的に分析検討する。
 更にアクシデントレポートは、医療安全推進委員会で改善策の検討協議を行うとともに、医療事故調査委員会での審議を必要とするものについては、随時、同委員会での審議を求めている。